

♪衣食住足らざる住宅調べ

食足つて礼節を知るとか、私達のくらしのうちで最近
は衣食の面は大いに充足され、むしろ米などは余っている
そうである。住宅は一見豪華になつてきたが、一般には
自分の家に住みたいという願望が満たされぬ人が多い。
今度10月1日に住宅調査が行なわれる。住宅政策の一
つとして行なわれるこの調査は、5年ごとに行なわれ
るもので、昭和40年国勢調査の中からそれぞれの抽出率
によつて本県の場合は1,049の調査区が抽出される。そ
の抽出率は、人口10万以上20万未満の市(水戸、日立)で
 $\frac{1}{4}$ 、10万未満の市の人口集中地区が $\frac{1}{8}$ 、その他が $\frac{1}{10}$
郡部では集中地区 $\frac{1}{12}$ 、その他 $\frac{1}{14}$ となつている。以上
とは別に調査区の世帯が、0から20世帯の未満の抽出率
は10万以上20万未満の市 $\frac{1}{8}$ 、10万未満の集中
地区 $\frac{1}{16}$ 、その他 $\frac{1}{18}$ 、郡部は集中地区 $\frac{1}{20}$
その他 $\frac{1}{24}$ の割合である。

♪統計の利用出所を確める

統計を利用する立場になつて、いろいろと
仕事上に統計を利用する場合がある。そこで
統計利用の場合、その資料がどのような目的
で、どのような方法で調査されたかを確かめ
る必要がある。現在の統計は、使うための何
等かの目的に沿つて調査されているわけだけ
から、これを別の立場で利用する側にとつては
利用の目的どおりのものが必ずあるとはいへ
ない。そこで統計を利用する場合は統計に真
実性(正確性)や誤差などが問題になること
があらう。いづれにしてもその統計の持つて
いる性質や、これを作成する諸条件、周囲に
存する背景などを勘案して、その資料を吟味
し効率的に活用を図つていくことが大切である
と考えられる。

♪豊作の田んぼで蛭住めぬなり

豊作ということばは、耕作技術の向上や薬品、肥料な
どの改良によつて普通のことになつてしまつたようで、
今年も恵まれた天候条件によつて豊作が予想されるこ
ろである。最近いろいろと論議された米価の問題もどう
やら落ちついたようだが、それに関連する食管法や、在
庫米などの問題が今後の課題として尾を引きそうであ
る。昔の平和な頃の田んぼは、夏の夜の風物蛭狩りなど
で、非常に詩的なものであつたが、地域社会の発展は、
それらの自然を破壊して、今は蛭さえ見当らない現状で
あり「兎追いしかの山、小ブナ釣りしかの川」といつた

水清き郷土の風景は夢の彼方に消え去つて、公害が各所
の話題となるようになってつたわけである。

♪ジジババのくらしにもどり盆終る

農山漁村は人口減少し、殆んどが過疎地帯といわれ
るようになってしまつた。そこに残る者は老人が多くなり
若い労働力の流出という労働力不足などの問題がある。

お盆は、現在では月遅れで行なわれる処が多くなつ
た。昔懐しい盆おどりの太鼓も若い人の不足で、めつた
に聞かれなくなつてしまつた。しかし盆になると都会に
散らばつていた人達が帰省し、村は急によみ返つたよ
うな活気を呈する。満員列車にゆられながら懐かしの郷里
の我が家に戻る。しかし盆の15日も過ぎるとその人達も
また都会に散つて行き、村は、我が家は老人だけの静か
な寂しいくらしに戻るのである。

♪物価上昇われは月給運搬夫

口の悪い人が、サラリーマンを評して月給
運搬夫といったとか。たしかに考えてみると
その言あるいふ的を得ているかも知れない。
1カ月を雨の日も、風の日も同じ道を、同じ
ように、決まつた時間に自家と勤務先を往復
する。そして1カ月ごとにサラリーをちよう
だいする。そして女房にそれを渡してしまう
とあとは小遣錢も思うようにならないのがサ
ラリーマンの勤め。ところで物価はほとんど
遠慮なく上昇、また今度は米価値上の刺激に
よつて諸物価一斉に首を持たげようとしてい
る。いよいよ二百円亭主ではどうにもならな
い時となりそうだ。小遣値上を要求すること
になりそうである。

♪夏終るとつかに侵略が起り

蟬しぐれの夏が終り、初秋の気配が濃く、トウモロコ
シの葉づれにも、空の色にも秋は忍びよつてくるこの
時、非常にショッキングなニュースが全世界を驚ろか
せた。8月20日連軍を筆頭に五カ国の連合軍がチエコス
ロパキヤに侵入したということである。弱者の宿命
か、大義名分はどのようにでも作られるのか強い者、何
んのかのといつて弱いものいじめをしたがる。この侵略
に対しチエコ国民の武器なき手で敢然と立ち向つた勇氣
には、感じ入つた。第2のベトナムの悲劇とならないこ
とを祈るのみである。

